

# 学校法人 渡辺学園

## 平成 23 年度 事業計画

### 学園の概要

#### 1．平成 23 年度運営方針

本学園は平成 23 年度に創立 130 周年を迎える。その中で建学の精神である「自主自律」を旨とし、女子教育の高等教育機関として校祖より変わらぬ教育姿勢を通して教育にあたっている。しかし、学園を取り巻く環境は急速に変化し、厳しさを増している中、18 歳人口の減少に加え競争的環境がますます熾烈になっている。文部科学省の中教審報告でも教育の質保証と向上、教育研究機能の充実のための組織・経営の基盤強化を挙げている。本学も大学院・大学等の改組転換を図りながら教育研究活動の質的向上に努めている。また、大学と附属高校との高大連携は本学園の重要課題とするところであり、今後の教育における「質保証」を念頭に置き、さらに相方の連携を推し進める。

管理運営面において財務・経営情報等の公開に続き、平成 23 年度より教育情報の公表が義務付けられる。更なる学園の適正化、透明性が問われる中で、本学園は平成 23 年度より内部監査制度の導入を決め、教育機関としての社会的責任を果たすべく取り組みに入る。

また、環境整備については板橋校地の老朽校舎の建替更新の検討を進めることにより学内教育環境の更なる充実や全学レベルでの危機管理整備を行う。

#### 2．環境・設備計画

平成 22 年度に引き続き空調設備の取替更新、耐震改修等の工事を行い、施設・設備の老朽化とエネルギー削減に対応すべく教育環境の設備を整える。

また、パソコン対応講義室や実習室のパソコン入替を行い、情報教育環境の充実を図る。

〔大学・大学院・短期大学部〕

##### 1) 板橋校舎大学 5 号館造形表現学科実習室整備工事

造形表現学科のカリキュラム改訂に対応するため大学 5 号館地下 2 階の改修工事を行い、映像系実習室として整備する。

##### 2) 板橋校舎大学 6 号館空調設備取替等工事

平成 22 年度国土交通省建築物省エネ改修推進事業補助金の採択を受けた大学 6 号館の空調設備の取替工事を行う。エネルギー消費効率の高い機器への取替と屋上に太陽光発電設備を設置し、地球温暖化対策とエネルギー削減に努める。

##### 3) 板橋校舎大学 7 号館耐震改修工事及び煉瓦造建物耐震診断

平成 22 年度実施した建物耐震診断の結果、建物強度不足があった大学 7 号館の地下 1 階金工実習室の窓を壁に変更する耐震補強工事を行う。

また、板橋区より有形登録文化財として指定されている煉瓦造平屋建物（3 棟）の建物耐震診断も行う。

- 4) 板橋校舎大学 10 号館(図書館・情報センター)2 階改修工事と外壁タイル点検調査  
図書館 2 階の AV 室とグループ AV 室、グループ学習室の間仕切を撤去し、図書館活用法等の導入教育・授業支援にも活用できる多目的室とメディア利用室に改修し、視聴覚設備とパソコンを設置、閲覧席の確保と図書館施設の充実を図る。  
また、建物外壁タイルの劣化・点検調査も行う。
- 5) 板橋校舎既存建物改修工事と年次計画策定のための事前調査  
大学 11 号館(85 周年記念館)、大学 2・3 号館、大学 5・6 号館についてバリアフリー対策のための教育施設の中・長期計画を策定するため構造等の調査を行う。  
また、平成 22 年度に実施した特殊建築物定期調査の指摘事項のうち緊急を要す 51 号棟学生クラブ部室外部鉄骨階段取替、大学 11 号館漏水補修工事、大学 6 号館防火戸改修工事、大学 2 号館木製建具改修工事を年次計画工事として実施する。
- 6) 学寮 3 号館耐震補強等工事及び空調設備取替工事  
平成 22 年度に実施した建物耐震診断の結果、強度不足の 2 階娛樂室に補強壁を設置する耐震補強工事を行う。  
また、空調設備はエネルギー効率の高い機器に取替工事を行い、省エネ対策と住環境の整備を図る。
- 7) 板橋校舎教育・研究用パソコン取替更新  
平成 18 年度に導入した大学 1 号館 3B・4A 講義室、大学 3 号館アパレル CAD 演習室及び栄養教育実習室のパソコンと授業用 AD サーバ・ストレージの取替更新を行い、教育環境の整備・充実を図る。
- 8) 事務系パソコン取替更新  
業務の効率を図るため板橋・狭山事務職員のパソコンと臨床相談センターのパソコン、入試処理用パソコン、事務用 AD サーバ・ストレージの取替更新を行う。  
また、平成 22 年に予算管理等機能追加をした財務システムについては執行管理を進める。
- 9) 板橋校舎百周年記念館電話交換設備更新工事  
電話交換設備は設備の老朽化と許容量限界のため取替更新を行う。
- 10) 狭山校舎 1 号館及び 4・5 号館空調設備取替工事  
平成 15 年度から年次計画として進めていた空調設備取替工事のうち 1 号館事務室系統空調設備と 4・5 号館空調設備圧縮機の取替工事を行う。
- 11) 狭山校舎馬頭坂線法面工事  
平成 22 年度に完成した都市計画道路馬頭坂線の本学側擁壁の法面のモルタル吹付工事を行う。

[ 高等学校・中学校・幼稚園 ]

- 1) 附属 D 校舎空調設備改修等工事  
D 校舎の空調設備を省エネに対応した効率の良い空調設備に取替更新を行う。併せて屋上の防水工事も行い、施設整備の充実を図る。
- 2) 附属 E 校舎照明器具改修工事  
照明設備を省エネ型に取替更新を行い、エネルギー削減に努める。

### 3) 附属中高校舎改修工事

平成22年度に実施した特殊建築物定期調査の指摘事項のうち緊急を要するA校舎図書室の梁補修、木製建具改修、C校舎の外壁・内壁の漏水補修工事を行う。

また、B・C校舎間の渡り通路、キャノピー改修工事のための建物の調査も行う。

### 4) 中高ビオトープ改修工事

平成13年に設置したビオトープの改修工事を行う。現在の池を縮小して校舎側に7㎡の池を新設、既存の池にポンプを設置してホースで水を汲みあげ、水路を掘り、水の流れを作る等、自然環境整備を行い、学習環境を整える。

### 5) 中高校舎地デジ対応テレビ整備

年次計画により特別教室・研究室・選択教室等のテレビを地デジ対応へ取替更新を行う。

### 6) 幼稚園園舎修理工事

幼稚園園庭の木製門扉取替と、1階保育室（あお組）の床板張替工事を行う。

## 3. 学園創立130周年記念事業

学園創立130周年記念事業として記念講演及び記念展示を行う。

### 1) 記念講演

女性の生き方・キャリア教育講演

教育に関する講演

シリーズ講演会 15回シリーズ 「本学の創立と建学の精神から東京家政大学への歩みに学ぶ日本の文化と歴史」

### 2) 記念展示

「衣食住」130年のあゆみ

### 3) その他

緑窓会からの寄贈事業等

## 学校別教育研究活動

〔大学・大学院・短期大学部〕

平成23年度は創立130周年を迎え、平成21年度のワンキャンパス化の大事業からも3年目となり、ワンキャンパス化による教育研究の更なる充実と大学の発展を期する。

### 1. 学生確保

平成23年度は、ワンキャンパス化も3年目となり、キャンパス再編と新たな教育改革への取り組みも更に充実させ、本学への志願者好調傾向が認められる。栄養学科と児童学科の入試レベルについては女子大の中でもトップグループであり、人文学部も、多くの志願者を集め、都内女子大としての高いレベルの位置を確保しつつある。一方短期大学部は、服飾美術科の募集停止後初めての入試であるが、保育と栄養の2科は好調である。

### 2. 就職活動

不況により就職活動は大変厳しいが、文部科学省の指導に基づき、キャリア教育、就職支援に一層力を入れる。専門職別にきめ細かなキャリア・就職支援プログラムを組み、教員と進路支援センターが連携し、学生の進路決定を支援し、求人情報の速やかな把握・

配信を含めさらにプログラムを充実させ、学生の自立・就職活動を支援していく。文部科学省における就職支援機能強化の方針に基き、各学科・専攻におけるキャリア教育の組織的対応と学生の自己啓発プログラムを体系化し、本学独自のキャリア就職支援機能システムを考案し実施する。

### 3．新設学科について

新設学科等は、学科の特徴を踏まえた個性化と競争力を備えていくことを目指し、教育研究活動の充実と活性化を進める。カリキュラム整備だけでなく、学生には明確な目標設定が必要である。

### 4．共通教育の充実

大学の共通科目の中核として開設した人間教育科目群（A群）をより充実し、履修ガイドブックを作成する。外国語科目を充実（中国語、韓国語等の増設）すると共に、英語については、習熟度別のクラス編成を検証する。

### 5．FD活動

授業アンケートを行い集計し、その解析を行い、授業改善に役立てる。公開授業により、授業のやり方をお互いに参考にする。

### 6．教育の充実

- 1) 基礎学力向上や学士の質保証に向けて、入学前教育・導入教育・キャリア支援等一貫した学習支援体制を検討する。
- 2) 学生意識調査を集計し、まとめて提言する。
- 3) 自校教育の実施に向けて検討を続ける。

### 7．奨学金

志願者の質の上昇を維持するために特待生制度による優秀者の確保を行うと共に、社会で活躍する優秀な人材育成を全学的に推進する。

### 8．狭山キャンパスの活用

狭山キャンパス利用計画調査委員会の最終報告を受けて、学園として、その内容の実現性の可否について検討する。

### 9．教員免許状更新認定講習会の実施

教員免許状更新認定講習会を実施する。8月16日～8月20日

### 10．図書館

AV室を改築し、多目的に学習できる空間を増設する。図書館ツアー・自主講座ポイントとなる図書館活用法・文献の探し方説明会・授業支援などの図書館利用支援（学術情報リテラシー教育支援）をより充実させる。東京家政大学機関リポジトリを推進する。博物館と連携し、学園関係の資料のデジタル化を進める。

### 11．保健センター

学生相談室と保健室では、学生が心身の健康を保ち、学生生活を充実させることができるよう、健康教育に重点をおいた活動を目指している。個人相談の他、健康に関する情報提供や学生生活調査等が計画されており、危機管理体制等の学内連携システムの構築も検討課題である。

### 12．国際交流センター

イギリス・エセックス大学における新規語学研修（10ヶ月間）の企画検討を行う。また、海外研修の危機管理体制の整備を行う。更に、大学全体としての国際交流に対する

姿勢を明確にするための方策を検討し、外国人留学生の受け入れと併せ、日本人学生の海外留学を今後も支援する。

#### 13. 生活科学研究所

生活科学研究所は、産学官連携プロジェクトを実施し、地域との連携や地産地消等の支援活動を、今年も続けて行う。

#### 14. 人間文化研究所

当研究所の計画は、プロジェクト研究と紀要発行を中心に、男女共同参画基礎講座(埼玉1回、群馬国内篇・国際篇の2回)、生命・生活・人生に関する講演会、在宅介護に関する公開研究会、仕事と生活についてワークショップ、啓蒙的冊子の発行など行う。

#### 15. 生涯学習センター

受講者が興味や必要性から学びたい講座を自由に選択、組み合わせられる学習の機会を提供し、地域社会との交流を更に深めていく。また、特別企画講演・講座を開催し、多くの方に生涯学習センターの存在を広め、学びの醍醐味を味わう活動を更に続けていく。

#### 16. ヒューマンライフ支援センター

平成 22 年度は板橋区との支援事業である「森のサロン」を開設し今年も継続する。食育活動及びパンフレット等デザインや編集業務並びに教材作成は、年々益々需要が増しており、学内外の期待に応えられるよう一層の充実を目指す。

#### 17. 地域連携協力推進センター

各種公開講座を開講する。狭山校舎近隣の狭山市・入間市等、また、地域社会との共同事業を行う。

#### 18. 博物館

創立 130 周年を記念して常設展の「学園の歴史と創設者のコーナー」を拡大し、更に充実をはかる。また、博物館も「生活資料館」開館から 30 周年を迎えるため、これまでの歩みと「渡辺学園裁縫雛形コレクション」などの主要コレクションを一挙公開する。また、企画展として春に「染 染色画から染織まで」、秋に「グアテマラ民族衣装」を開催予定である。

#### 19. 臨床相談センター

地域に開かれた「心理療法の場」並びに、大学院生の教育実習機関として設立し、11 年が経過した。心理臨床の専門性を活かした丁寧な相談を心がけて、今では近隣を中心に年間 1,000 人を超すクライアントが来所されており、地域の医療・公共機関とのネットワークの継続も大切に活動を実施している。

#### 20. その他の文部科学省委託事業及び教育改革支援 G P

平成 21 年度からの大学教育・学生支援推進事業(テーマ B)において、大学の採択が継続する。2 件とも進路支援センターで実施される。また、平成 22 年度採択からの、短期大学の就業力支援プログラムが同じく進路支援センターで継続される。

#### 21. 教員・職員の協同活動

- 1) 新任教員歓迎ガイダンスを 4 月 2 日に行う。
- 2) 教職員研究会を 9 月 12 日に行う。
- 3) リサーチウィークスを、2 月末に行う。

## 22. 緑苑クラブ賞

本学の名譽を担い、社会で活躍する卒業生を表彰する。

(大学院)

大学院改組準備委員会でまとめられ、教授会・理事会で承認された大学院改組案について、平成24年度開設に向けて、文部科学省へ申請する。

[ 中学校・高等学校 ]

### 1. 教育内容の充実を目指す

躍進(国公立・難関私大目標)と創造(東京家政大学・難関私大目標)のコース制が2年目に入る。学力・学習意欲向上の面で成果を挙げつつあり、更に充実を図る。

建学の精神「自主・自律」の下、総合学習ヴァンサンカン(25歳)プランの内容を更に充実させ、「自主・自律」の道を歩む25歳時の未来図が鮮明に描けるように学習していく。また、伝統ある長い歴史の中で培われてきた大学附属校としての知的イメージや自然に恵まれた広いキャンパスの中で、中学生から大学生まで幅広い年代が同じ敷地内で学ぶことによって育まれる人間性を大切にしていく。

#### 1) 中学校

昨年より実施の入学時宿泊行事として学習オリエンテーションを継続し、中学生としての自覚を持たせ、学習への取り組み方を学んでいく。また、互いに励ましあっていく仲間作りなど、以後の学習習慣の基礎を作る。

躍進コースは、週3日の7時間目講習、長期休暇の特別講習などを行い、創造コースは、少人数の分割授業を行う。全学年を通じて自学自習の習慣を育てるために、早朝と放課後に自習道場を実施する。また、校外学習はじめ各種行事の内容やあり方を見直す。高校進学時、進路希望の変化に柔軟に対応し、コース変更なども考慮する。

#### 2) 高等学校

高入生と中入生の中から新たな躍進コースを設ける。また、高入生・創造S、中入生・創造Sと併設大進学を中心に、外部大学合格も視野に入れた創造コースを設ける。学習指導の体制としては躍進コースには週3日、創造Sコースには週2日の7時間目講習を行い、また放課後や長期休暇中に補修・講習を行うほか、年3回特別講師による講習を実施する。校外宿泊行事として、入学時の学習オリエンテーションや夏期の勉強合宿を行う。

## 2. 総合学習

中学校、高等学校ともにヴァンサンカンプランとして、25歳時における自己の生き方のデザインを描いていく。どのような職業に就き、生き方をしていくのかを探求し、そのための具体的学習として職業調べ、大学・学科研究、ボランティア研究・活動・報告発表など様々な取り組みを行っているが、これらの充実を図っていく。併設大教員による出張授業や、他大学からの出張説明会などを開催し、生徒のモチベーション維持のために高大連携を強めていく。今日、中高時代に養われる基礎学力の重要性が増し、また、他者との連携によって人間力が成長することが重要となっている。

## 3. 心理面でのサポート

生徒個々の相談対応はもちろん、一人ひとりを大切にする心のケアを重視しており、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと校長、学事顧問が生活相談会議を開き、報告や相談など話し合いを毎週行っている。生徒個々については、学年主任、学級担任、クラブ顧問が保護者と共に指導を実践しており、更に協力体制を

強化していく。

#### 4．教員の教育力、授業力の向上について

生徒の人間の成長や学力向上支援は、学校の社会的使命である。生徒自身が直面する様々な問題に自主的に対処し、問題の本質を見極め、自ら解決の方向を見出していく支えとなるのは、知力・学力である。そのため教員は、授業力と生徒の理解力向上のため常に努力が必要である。各教科チームの相互研修、研究授業、教員研修会などを充実させていく。

#### 5．入試広報・生徒募集活動

本校のすぐれた教育内容や学習環境の良さなどを受験生・保護者、公立中学校や学習塾等の教員に充分理解してもらうため、今後いっそうの入試広報・生徒募集活動を工夫、展開していく。

### [ 幼稚園 ]

#### 1．幼稚園教育として

1) 学園の生活信条をもとにした従来からの教育方針に則り、より良い環境の中で保育を進めていく。

2) 園の保育の充実と保育者の資質能力の向上のために園内研究会を実施する。子どもの発達と教材教具のあり方、子どもの生活と心の育ち、家庭との連携など、様々な視点から研究する。

3) 預かり保育（ももの時間）の充実をはかり、子育ての支援をする。

4) 将来の幼保一体化を目途とし、幼稚園・ナースリールームの相互理解のために情報交換・研究会を実施し、相互の交流を促進する。

5) 平成 22 年度からのカリキュラム改訂に合わせて、本学の幼稚園実習にかかる支援をしていく。

2．次年度の園児募集方法として、幼稚園案内やホームページ等による後方の充実や、保育者参加によるヒューリップとの連携、未就園児（2 才児未満）保護者の施設見学受入れなどを推進する。

3．運営の方向性として、大学及び附属中高校との連携を密に図り、教育実習や卒業論文、授業、ボランティアなどを受け入れること、更に本園修了生や地域の小中学生の体験学習を柔軟に受け入れること、等々により広く学生の育成を支援していく。

また、父母の会保護者を対象とした講演会や講習会の実施、サークル活動の援助、未就園児（園児弟妹）を含む自然環境作りへの参加など、親と保育者がともに保育環境の充実のために、幼稚園の環境づくりや行事への参加などに努力していく。

### [ ナースリールーム ]

1．全国的に乳幼児保育が拡大され、その質を問われている現況において、これまでのナースリールームにおける実践と研究の実績を踏まえ、大学における保育者養成に寄与するとともに、乳幼児保育の質の向上、保育者の専門性について、大学が持つ施設としての特色を十分に生かしながら保育実践を行うとともに研究発表、執筆、講演等で広く社会に提言をしていく。

- 2．将来の幼保一体化を目途とし、行事やあそび等を通して、みどりヶ丘幼稚園とナースリールームの年齢の異なる子ども同士が、無理なく自然に交流できる機会を設けていながら、保護者及び保育者間の相互理解のための情報交換、研究会等を更にすすめていく。